



トピックス…①

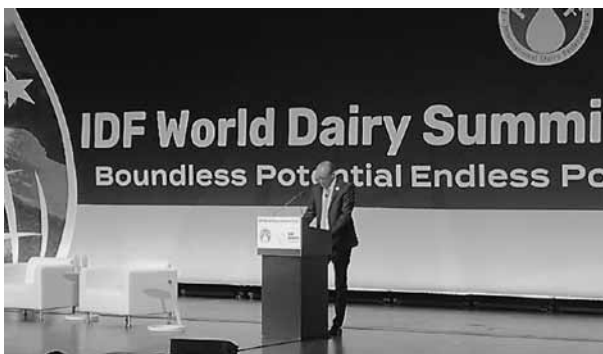
IDFワールド・デリー・サミット2023 －世界の酪農業界のリーダーが酪農の未来を祝う－

2023年10月16日から19日の4日間にわたり、30年ぶりに米国（シカゴ）で開催された国際酪農連盟ワールド・デリー・サミット（IDF WDS）では、55カ国から1,240名以上の酪農業界のリーダーが集い、IDFの創立120周年を祝うとともに、消費者の栄養改善、酪農の革新、地域社会への資源提供、持続可能性及び食料安全保障などへの貢献などを示した「IDFワールドデリーサミット2023声明」が発表された。日本からはJミルクの会員及び専門員を中心に51名が参加した。

1. 大会宣言

WDSの初日にあたり、IDFのピアクリスティアーノ・ブラザーレ会長とキャロライン・エモンド事務総長は、WDS共同議長であるニック・ガードナーとショーナ・モリスとともに、世界の酪農業界が団結することの重要性を強調し、政府、国際機関、および世界の食品・飲料業界が酪農を支援するよう呼びかける「IDFワールドデリーサミット2023声明」を発表した。

IDFのブラザーレ会長は、「1903年にブリュッセルで開催された第1回世界酪農会議以来、IDF WDSは、酪農業界における最も有望な団結の機会と最も重要な課題解決に協力する比類のない機会である。」、また「酪農業界のすべての人々の努力と献身は、60億人以上の消費者を養い、世界中で10億人の生計を維持する、美味しく、栄養価が高く、かけがえのない食品を生み出している。」と述べた。



開会挨拶するブラザーレIDF会長

続いて、IDF米国委員会の委員長および持続可能性・多国間問題担当の米国乳製品輸出協会上級副会長も務めるガードナー氏は、「米国の酪農業界は、この重要なIDF WDS 2023を主催し、30年ぶりに酪農業界の最高の年次集会在米国で開催されたことを光栄に思う。」、また「世界的に有名な講

演者から話を聞き、仲間との関係を築き、さらには米国の主要な酪農地域のいくつかを訪問することで、IDF WDS 2023の参加者は、米国酪農の貢献を直接目にし、栄養、食料安全保障、環境保全などにおける酪農の重要な役割を擁護する私たちの総合的な能力をさらに強化した。」と述べた。

2. 全体会合の概要

今回のWDSでは、「酪農が世界にもたらす無限の可能性」をテーマに、政策、科学技術、市場に焦点を当てた8つの全体会合と21の分科会を含む、4日間のプログラムが提供された。また、IDFは2022-23年度年次報告書「世界の酪農状況2023」を発表し、世界中の革新的な実践を称え、奨励する第2回IDF酪農イノベーション賞の受賞者を発表した。全体会合の概要は次のとおりである。

(1) 全体会合1（米国から世界へ：酪農業界の無限の可能性を引き出す）

この全体会合では、米国の酪農乳業を紹介するとともに、酪農業界の無限の可能性を解き明かし、協力することによって世界の乳製品需要を拡大することが議論された。

講演者は、① 科学に基づく基準と政策が乳製品の需要を構築するための基盤を作成すること、② 乳製品需要の拡大に関する世界的な取り組みの調整により、需要の拡大が可能になること、③ 貿易はバリューチェーン全体の需要を高めるウインウインの市場成熟を促進すること等を強調した。

(2) 全体会合2（グローバル・リーダーズ・フォーラム）

①バーバラ・オブライアン：イノベーションセンターおよびデリーマネジメント社 社長兼

最高経営責任者（米国）

- ②大貫陽一：森永乳業株式会社 代表取締役社長兼 J-milk 会長（日本）
- ③マイルズ・ハレル：フォンテラ協同組合グループ会社 最高経営責任者（ニュージーランド）
- ④パトリシア・ストループ：ネスレ 調達最高責任者（スイス）
- ⑤ジャイエン・メータ：アムール-グジャラート協同組合乳業 経営責任者（インド）

世界の酪農業界を代表する上記5名を論者に迎えて、「世界の酪農業界は、十分なイノベーションと新しいプロジェクトが進行中であるため、責任ある方法で動物、地域社会、地球を擁護しながら、人々が望む食品を提供する無限の可能性を秘めていること」、「酪農業界が今日の課題に対処するために新しいアプローチをどのように採用しているか、また豊かな未来への道筋を描く方法」について協議した。



グローバル・リーダーズ・フォーラムで講演する
Jミルク大賞会長（右端）

（3）全体会合3（IDFフォーラム：今日の焦点、明日への展望）

IDFは世界の酪農業界の主要組織であり、世界の幅広い酪農産業の間で科学に基づいた連携を推進している。IDFが創立120周年を迎えるにあたり、IDFの2023年の成果と現在の優先事項の概要、それらが国際的な酪農コミュニティにとって重要である理由、および今後数年間の計画について議論した。

（4）全体会合4（酪農業界の見通し：世界の酪農業界の状況と市場動向報告）

IDFの主要出版物である「世界の酪農状況2023」と「グローバル・マーケティング・トレンド2022」の最も関連性の高い項目と要点について議論され、IDF WDSの参加者によって情報共有された。

（5）全体会合5（世界の酪農：今日の焦点、明日への展望）

酪農家は世界的な食料生産システムの一部として、環境から動物福祉、経済に至るまで、ますます複雑な社会的期待に直面している。2050年までに、乳製品に対する消費者の需要は1.8%増加する見込みである。酪農家は、増加する乳製品需要にどのように応えながら、増大する社会的期待にも対応していくかが議論された。

（6）全体会合6（グローバルスタンダードの成功：IDFと国際標準化機構との協力）

2023年、IDFは創立120周年を迎え、同時にコーデックスが60周年を迎えるのに伴い、IDFと国際標準化機構（ISO）の協力関係も60周年となる。この会合では、IDF、コーデックス、ISOが注目すべき成果を共有し、影響を強調し、専門家の関与を動機付け、将来の協力について議論された。

（7）全体会合7（世界の乳製品製造：今日の焦点、明日への展望）

進歩的な乳製品製造の著名な論者が、乳製品製造業界の最大の課題と最も注目すべき機会に関する洞察と視点を提供した。世界中の乳製品の消費と進歩を促進し、消費者の期待に応えるだけでなく、それを実現するために、業界は何ができるのか。各論者は、市場動向、技術の進歩、サプライチェーンの課題、政府の規制、およびさまざまな市場における革新を推進または制限するその他の重要な要因を調査し、乳製品製造の将来に対する展望を提示した。

（8）全体会合8（進化するフードシステムへの酪農の貢献）

2021年の国連フードシステム・サミットは、私たちが何を食べ、どのように作られているかに関して、より持続可能な未来を推進する方法について、多くのアイデア（良いもの、悪いもの）をもたらした。2年後のこの会合では、その後、及び今後数年間で乳製品に影響を与える可能性のある出来事について議論された。また、地球環境を護りながら、世界人口を養うために私たちがどこに向かうべきかが議論された。